



えひめ臓器移植推進財団広報誌

えひめいのちつなぐ通信

Vol. 2

2025年12月

～あなたのやさしさとおもいやりをかたちに～

(公財)えひめ臓器移植推進財団では、臓器提供の意思表示の普及活動や、臓器移植希望者に対する助成を通じて、臓器不全患者の機能回復や、県民の臓器移植に関する意識啓発の推進に取り組んでいます。

Q ごあいさつ

日頃より、当財団の活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。臓器移植医療は、病気や事故によって臓器が機能しなくなり、移植でしか治療できない方が日常生活を取り戻すための希望の光です。しかし、移植希望者数は年々増加している一方で、提供される臓器の数は限られており、依然として深刻な不足状態にあります。このような現状を踏まえ当財団では、県民の臓器移植医療への理解と関心をより一層広めていくことが急務だと考えています。

当財団では、毎年10月の臓器移植普及推進月間における街頭キャンペーン活動等を通じた臓器提供の意思表示の普及啓発や移植を希望する方への各種助成などに取り組んでおります。

今年度の街頭キャンペーン活動では、初めてプロバスケットボールの試合会場で啓発活動を実施させていただいたほか、過去最多となる県内6施設で、建物を移植医療のシンボルカラーの緑色にライトアップする「グリーンライトアップキャンペーン」にご参加いただくなど、関係団体の皆さまのご協力のもと、啓発活動の裾野拡大に努めております。

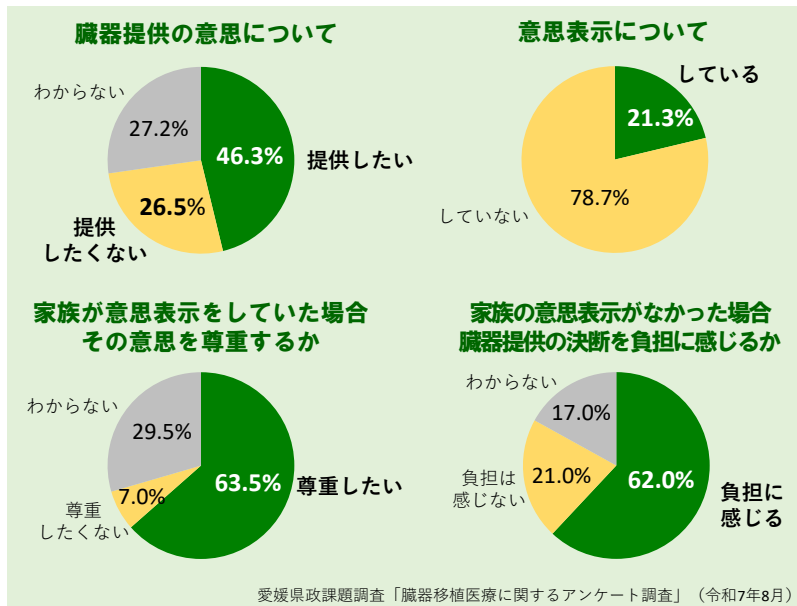
そのような中、今年度は県内でこれまでに1件の脳死下臓器提供が行われ、5名の方に臓器が移植されました。ドナーの方をはじめ、提供をご決断いただいたご家族の皆さまには心より感謝申し上げます。皆さまの尊い決断が、多くの命をつなぐかけがえのないバトンとなっています。

これからも、ドナーやご家族の皆さまの思いを胸に、臓器移植によってひとりでも多くのいのちが救われることを目指して活動してまいりますので、引き続き当財団の活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



理事長 大塚 岩男
(株式会社伊予銀行特別顧問)

Q 臓器移植医療に関する県民アンケート調査結果



本年8月に県が行ったアンケート調査の結果、72.8%が臓器提供したい・したくないという意思を持っている一方で、実際に意思表示を行っているのは21.3%であり、臓器提供に対する考えがあっても、実際に意思表示を行っている割合は低くなっています。

また、ご家族が「脳死後または心停止後に臓器を提供したい」という意思表示を行っていた場合、63.5%がその意思を尊重したいと答えた一方、本人の意思表示がない状況で臓器提供を決断することを負担に感じると答えたのは62.0%であり、事前に意思表示を行っておくことの大切さがよく分かる結果となりました。

令和6年度事業報告

令和6年度は、臓器移植普及推進月間（毎年10月）の趣旨を広く周知するための各種啓発活動のほか、県臓器移植支援センター（県衛生環境研究所内）に所属する移植コーディネーターの活動支援、移植希望者等に対する各種助成事業などに取り組みました。

1 臓器移植普及推進月間の周知活動

令和6年10月1日～31日の臓器移植普及推進月間では、街頭での啓発グッズの配布活動や関係団体への資料配布を行い、臓器移植の普及啓発に取り組みました。



県美術館パネル展示



街頭キャンペーン



県庁グリーンライトアップ

2 県移植コーディネーターの支援活動

県臓器移植支援センターに所属する県移植コーディネーターを支援するため、学校等での啓発講演のほか、広報ラックを活用したコンビニへの啓発資材の設置、医療機関への啓発バナーの巡回設置などに取り組みました。

3 臓器移植希望者等に対する各種助成の実施

県内の臓器移植の取組を支援するため、臓器移植希望者の日本臓器移植ネットワークへの登録料や検査費用等に対して、計427千円の助成を行いました。

- ◆(公社)日本臓器移植ネットワークへの臓器移植希望新規登録料の助成（9件）
- ◆県臓器移植支援センターが実施する組織適合性検査の助成（17件）
- ◆臓器提供のための摘出手術に協力した医療機関に対する助成（1件）

4 小児入院患者を対象としたイベントの実施

財団では、長期にわたり入院している子どもたちが前向きに治療に取り組めるようサポートするため、寄付金（亜裕美ちゃん基金）を活用したイベントを実施しており、令和6年度は愛媛大学医学部附属病院の小児病棟と愛媛県立とべ動物園をオンラインでつなぎ、病院にいながら動物園を探検しているかのような体験ができるイベントを開催し、14名のお子さんに参加いただきました。

当日は天候にも恵まれ、参加者は動物に関するクイズや飼育員への質問などを通してイベントを楽しんでいたほか、ピースのぬいぐるみや缶バッジのプレゼントに大変喜んでいただきました。



プレイルームの様子



動物園での撮影状況



参加者へのプレゼント

臓器移植医療に対する思い（臓器移植院内コーディネーター手記）

院内コーディネーターって？

愛媛県では臓器移植にかかわりのある病院を対象に、院内での臓器移植の普及啓発や臓器移植に関する情報交換などを行う「臓器移植院内コーディネーター」を設置しています。

今回は、愛媛大学医学部附属病院で平成23年から院内コーディネーターとしてご活躍いただいている新居看護師長に、移植医療への思いをご執筆いただきました。

同病院は県内6か所の臓器提供施設の1つで、今年度からは国の臓器提供連携拠点施設にも指定されているほか、腎臓に加えて県内で唯一、肝臓と心臓の移植も可能であるなど積極的に移植医療に取り組んでいます。



愛媛大学医学部附属病院 院内コーディネーター

看護師長 新居 由香

私は2011年ごろ、前任者の異動に伴い、院内コーディネーターを引き継ぐこととなりました。当時は臓器を受ける側の移植外科の看護師として活動しており、コーディネーター業務は初めての経験でした。当時は現在ほど研修制度が整っておらず、愛媛県の研修や県コーディネーターの方々、JOTの講演などから一つひとつ学んでいきました。

移植外科の看護師としての移植医療への思いは配属時にさかのぼります。当院ではまだ移植医療は実施しておらず、移植が必要な患者さんは転院を余儀なくされていました。20代の男性患者さんが移植が必要となり転院しましたが、新しい病院への不安や医療者との新たな人間関係の構築など、大きな負担があったと後に伺いました。この時「もし当院で移植医療を提供できていれば、患者さんは不必要な負担や不安を抱くことなく治療に専念できたのではないか」という思いを強く持ちました。身近な場所で先進医療を受けられるということは、患者さんにとって非常に重要なことだと感じ、この思いが現在の移植医療・移植看護への取り組みにつながっています。

当院では臓器提供はまだ1件ですが、角膜提供は継続して行っています。その中で、臓器提供を希望された方への情報提供や相談対応は複数回にのぼります。これまでは、ご家族のお気持ちを確かめたうえで提供には至らなかった事例もありました。決定までの過程では、患者さんや家族の考えに寄り添い、「提供する」だけでなく「提供しない」という選択肢もあることを丁寧に説明し、最終的な判断をしていただくことが重要だと考えています。この思いは、役割を引き継いだ当初から変わっていません。

初めて臓器提供に関わった際、提供されたご家族の落ち着いた表情と、提供を受けた患者さんが回復していく様子をうかがい、両者をつなぐ役割の重要性を改めて実感しました。また、院内コーディネーターとして、院内の連携構築や情報共有が非常に重要であることを痛感しました。普段働いている職場ですが、臓器提供において一丸となった取り組みを通じて、職場の新たな一面を見ることができ、院内のコーディネーションがドナー・レシピエント双方にとって最大の医療・看護につながることを体感しました。

現在、院内コーディネーターは3名で活動しています。今後も緩和ケアの一環として臓器提供に関わり、「提供する」「提供しない」どちらの選択も尊重できるコーディネーションを心がけ、多職種チームで取り組んでいきたいと考えています。



臓器移植に関する出前講座について



愛媛県では、県臓器移植コーディネーターを講師として、臓器移植の必要性や現状、臓器提供の意思表示の大切さなどに関する無料の出前講座を行っています。

詳細は下記URLまたはQRコードからご確認ください。

URL : <https://www.pref.ehime.jp/page/15188.html>



賛助会員・寄付者のご紹介

令和6年度にご支援いただいた方をご紹介します。
心温まるご支援に心から感謝申し上げます。

団体賛助会員（敬称略）

今治くしまライオンズクラブ	株式会社伊予銀行	医療法人社団重信クリニック
社会医療法人同心会 西条中央病院	愛媛県腎臓病患者連絡協議会	松山道後ライオンズクラブ
社会医療法人社団更生会 村上記念病院	川之江中央ライオンズクラブ	

個人賛助会員（敬称略）

岩崎 文男	森貞 雅博	匿名 7名
-------	-------	-------

寄付者（敬称略）

愛媛県庁職員有志	匿名 1名	
----------	-------	--

賛助会員のご加入、寄付のお願いについて

当財団では、主に財産運用や賛助会員費収入により臓器移植の普及活動を行っておりますが、近年の金利低下により、財団運営が非常に厳しくなっております。財団の活動を継続していくため、現在の賛助会員の皆様の継続的な支援はもとより、新たに賛助会員となっていたただける方や、寄付にご協力いただける方を募集しております。

当財団の活動趣旨をご理解いただき、格別のご支援を賜りますようお願いいたします。

賛助会員費：団体会員 年会費 1口 10,000円～

個人会員 年会費 1口 1,000円～

寄 付 金：金額は問いません

賛助会員費・寄付金について、金額により税制上の優遇措置が受けられます。

また、専用の払込用紙を御利用いただいた場合、手数料はかかりません。

ご支援いただける方は、下部に記載のHPから申込方法をご確認ください。

発行：公益財団法人 えひめ臓器移植推進財団

〒790-8570 愛媛県松山市一番町1丁目4-2

（愛媛県保健福祉部医療対策課内）

TEL：089-912-2447 FAX：089-921-8004

E-mail：iryotaisaku@pref.ehime.lg.jp

URL： <https://www.pref.ehime.jp/page/4194.html>

